
「腎凍結療法において凍結療法が腫瘍針生検に与える影響に関する検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんのカルテ情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、【埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2022年3月1日から2024年3月31日の期間に【埼玉医科大学総合医療センター】で腎細胞がんに対して凍結療法を実施した方を対象としております。

2. 研究の目的

腎凍結療法は、小さな腎細胞癌に対してCTなどの画像を用いて治療を行うことができる低侵襲な治療(インターベンショナルラジオロジー治療 (IVR)と言います)で、2011年より保険診療として治療が可能となっています。腎凍結療法では、事前に生検という腎臓の腫瘍の良性か悪性の診断を行い、診断が確定した後に凍結療法を行うことが理想的と考えられています。しかし、患者さんの高齢化や地方都市における社会的状況により、腎凍結療法と同じ日に生検を施行せざるを得ない場合があります。また、腎臓は血液が豊富のため、生検により出血をきたし、生検に影響を及ぼさないために凍結療法の後に生検を施行する場合があります。本研究は、2022年に当院に導入された腎凍結療法において凍結療法が腫瘍針生検に与える影響について検討することを目的としています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年6月6日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

診療記録、血液検査、画像検査、病理組織型検査、治療に関する情報を用います。

この研究で得られた患者さんの情報は、【埼玉医科大学総合医療センター 画像診断科・核医学科】において、研究責任者である友金 佐光が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

腎細胞癌と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 画像診断科・核医学科 友金 佐光（研究責任者）
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 画像診断科・核医学科 宮崎 将也
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 画像診断科・核医学科 渡辺 渉
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 画像診断科・核医学科 後藤 俊
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 画像診断科・核医学科 近藤 修一
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 画像診断科・核医学科 緒方 春香

4. 試料・情報の管理責任者

当院単独の研究かつ検査・解析等もすべて自機関で行う（国内の外注検査等を除く）場合

【埼玉医科大学総合医療センター】 病院長

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 画像診断科・核医学科 友金佐光

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

電話：049-228-3509（直通）（土日祝日を除く 9：00～17：00）

○研究課題名：腎凍結療法において凍結療法が腫瘍針生検に与える影響に関する検討

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 画像診断科・核医学科 友金佐光